

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	総合療育センターあじさい愛宕	公表日	2026年 2月 16日
------	----------------	-----	--------------

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	5	1	・あまり広くはないスペースではある。	イラストなどを使用して、メモに書いて板書を促すようにしている
	2	6		・土曜日が平日より多いことがあるが、放デイから移動させたりと臨機応変にできている。・未満児がいるときには通常職員配置より多く職員配置している	
	3	6		視覚的に伝えるようにしている・トイレが大小分かれていてわかりやすい・絵カードを使用して学年ごとに視覚的支援をおこなっている。車いすトイレや幼児トイレ	
	4	6		毎日の掃除はかかさずおこなう。子どもたちの人数に合わせて物の配置、空間の工夫をしている。夕方にも掃除を行いプレイルームの使い方や椅子などの検討しながら環境調整をしている。	
	5	6		・広くないスペースをパーティションで区切るなど努力している・クールダウンするために一人の空間をつくれるよう調整している。	
業務改善	6	5	1	・専門職の意見、保育士の意見を合わせてそれぞれの活動の振り返りをする時間を増やしたい。	
	7	6		研修や職員会議をおこない職員の話把握できる機会がある・面談での話も共有がある為、療育につなげることができていると思う。	
	8	6		・終礼で報告ができ その場で相談するとその日のうちに改善されている・守礼や会議の場で意見を出す場があり業務改善につながっている・いつも同じ職員が質問している為違う職員の発言の場を設けていきたい。	
	9	6		・年に1回評価をいただき改善に努めている。	
	10	6		・様々な研修案内や受講をしている。	
適切な支援の提供	11	6		・HUGがとてもいいと思う・毎日の予定HUGで共有している	
	12	6			
	13	6		終礼や会議を通して1人1人の現状把握と次の目標など話し合いをおこなっている・終礼で詳細を共有することでそれぞれの児童に合う療育・目標などがつくられていると感じる。	
	14	6		・全体ラインを使いその日の活動計画は毎日共有されている・支援計画書をみている職員とそうではない職員の差がある為、今後改善が必要。	
	15	6			
	16	6		・各関係機関保護者様とラインや電話面談などでよくコミュニケーションが取れていると思う	
	17	5	1	・管理者と担当者が作っており子どもたちからの意見も取り入れながら作っている。(クッキングやスイーツ作りなど)	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・子どもたちからも意見をもらいながら作成することもある。偏りがないように、低学年、高学年交互の意見を繁栄している。(クッキングやスイーツ作り)	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	・リーダーの職員がサブについている職員に前日や当日の朝に集中を行っている・支援中、棒立ちの職員も見受けられる為その都度動きを伝える必要があると感じる。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		話し合い後、終礼にて全員に共有している・職員間の連携が取れている・内容の共有がある時とそうでない時がある。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・ケア記録などを活用している・必ず、その日のうちに記録を作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・モニタリングを行なっている職員が共有している・モニタリングをする職員の固定化が見られる	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		・管理者がおこなっている	
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		情報交換の時間を設けている(毎年春休み)	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6		・会議や話し合いの場を設けている	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	・直接交流があっているわけではないので難しい	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		日頃の様子をアプリやラインで共有している・定期的に面談をしている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	・担当の職員が行っており共有している・定期的に面談をしている。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		・定期的に面談時に話している。		
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		・定期的に面談時に話している。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		・定期的に面談時に話をしている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・助言を言える立場ではないので行ったことは無い そのために保護者支援の趣意を選びたい・面談や電話での対応をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		イベントを通して交流の場を設けている年に2回から3回 ・親子参加型のイベントを開催している。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		・HUGやブログなどに活動内容をのせている	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		ブログ・SNSなど配信している	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		・個人情報の取扱いに関して終礼で何度も話しているがなかなか周知できないところがある	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	・地域のクレームはその都度対応している	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	・研修や訓練がある	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5	1	定期的に訓練している	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		職員間の共有を必ずしている・面談時に都度確認。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		・終礼や職員会議が話し合いの場になりラインが保護者様に周知され役立っている	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		終礼などでその都度共有	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・終礼や職員会議が話し合いの場になりラインが保護者様に周知され役立っている	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		・終礼や職員会議が話し合いの場になりラインが保護者様に周知され役立っている		